

Title	慶應義塾図書館蔵『大仏供養物語』解題・翻刻
Sub Title	
Author	石川, 透(Ishikawa, Toru)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2001
Jtitle	三田國文 No.34 (2001. 9) ,p.103- 109
JaLC DOI	10.14991/002.20010900-0103
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20010900-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾図書館蔵『大仏供養物語』 解題・翻刻

石川 透

解題

室町物語「大仏供養物語」は、建久六年（一一九五）の、東大寺の大仏供養をめぐる物語である。ただし、再興した重源にまつわる話ではなく、導師としての法然を中心とした構成となっている。

本書については、松本隆信氏「増訂室町時代物語類現存本簡明目録」（御伽草子の世界、一九八二年八月）に著録されている。しかし、諸本の位置付け、並びに、内容の考察については、箕浦尚美氏「大仏供養物語」考」（古代中世文学研究論集）三集、二〇〇〇年一月）が最新の成果である。

本書の書誌は以下の通り。

所蔵、慶應義塾図書館

番号、一〇X―三〇〇

形態、袋綴、一冊

時代、「江戸初期」写

寸法、縦二六・四糎、横二〇・六糎

表紙、栗皮色表紙

外題、「大仏供養物語」

内題、「大仏供養物語」

字高、二三・三糎

料紙、斐楮交漉紙

行数、半葉八行

丁数、二十二丁

尾題、「大仏供養物語」

印記、「慶應義塾図書館蔵」「よこ山」「アカキ」（朱印）

翻刻に際して、本文は底本のおもかげを残すように努めたが、漢字・異体字はおおむね現行書体に改めた。また、私に句点・読点・「」・「」括弧等を記し、改行も加えて読解の便宜をはかったが、煩瑣になるので（ママ）は記さなかった。割字は小字にして示した。振り仮名のさらに右に記された振り仮名は、（ ）に入れて示した。

大仏供養物語

修乗坊重源、東大寺ヤウヤクス、メ作テ入唐ス。帰朝ノトキ、極楽ノ曼陀羅、五祖ノ真影ヲ渡シタテマツリ、東大寺半作ノ軒

ノ下ニテ、法然聖人、御導師トシテ、供養アルヘキ由風聞アリ。
シカルアヒタ、建久六年乙巳十一月二十八日ト、サタメラカレ
シコトナレハ、東国大将殿ヲ始マキラセテ、宗トノ大名、千葉
北条、和田、畠山、宇都ノ宮ヲ始トシテ、宗トノ大名三百八十
余人、ソノ外数ヲ不知。

又、鎌倉殿ノ北ノ御方ヲ始マイラセテ、畠山ノ内々サマ、宇
都ノ宮ノ内方ハ、鎌倉殿ノ北ノ御方ニハ、妹ト御前ニテマシク
ケレハ、申ニヲヨハス、大名小名ノ女房達、法然上人ノ御説法、
聴聞セントテ、六百人トソキコヘシ。

京上臈達ニハ、帝王ヲ始マキラセテ、関白殿下、臣家卿上雲
客、籠居日ミスタチヲ始マヒラセテ、南都ノ輿車ヲヤリツ、ク
ルソ、ヲヒタ、シキ。ソノホカ、大和、山城、和泉、河内、近
江、越前ヨリ、マヒリツトフ聴聞衆、イクラトイフカスラシラ
ス。

カ、ルトコロニ、法然上人、鎌倉殿へ案内ヲ申サレケルハ、
「承り候へハ、供養ノ御導師ニ、源空ヲ被レ召可候由、承り候。
尤導師ニメサレンコト、面目ト存候へトモ、浄土門ヲトリタ
テ、愚癡闇鈍ノ衆生ヲ、仏道ナサント營ミ候へハ、山ノ大衆、
「不思議ノ法然房、外道ノ法ヲトリタテ、衆生ヲ地獄ヘヲトサ
ントセラル、不思議サヨ」トテ、撰擇ノ形木ヲ打破シ、刻ニ黒
谷ヲ追出セラレ、当時ハ大原ニ栖候。マシテ、導師ツカマツル
ト聞へテハ、広坐トモ、ハ、カルコトハ候ハシ、狼藉ツカマツ
リ候ナンス。カ、ル大事ノ御供養ニ、障碍ヲナサンコト、口惜
カルヘキコトニ候。余ノ導師ヲメサレ候へ。源空ニヲキ候テハ、
叶候マシキ」由ヲ申サレタレハ、鎌倉殿「頼朝カ、ハカラヒタ

ルヘカラス」トテ、当帝へ奏聞セラル。帝王ヲ始マイラセテ、
公卿殿上、「サテ、イカ、アルヘキ」ト僉議シ玉フ。

大宮ノ左大将忠光公ノ申サレケレハ、「白河ノ院ノ仰ニモ、何
事モ、丸カ心ニソムケル事ハナケレトモ、賀茂河ノ水ト雙六ノ
賽、山法師ノ心、是三ハ、丸カ心ニ叶ヌモノソ」ト仰ラレシ事
ナレハ、今モカクコソ候ハンスランメ。サ候ハ、天台座主ヲ
メサレ候へト申サレケレハ、「可爾」トテ、「天台座主ヲ可レ被レ
召」トソキコヘシ。

奈良法師、コノ事ヲ承リ、「イワレ候ハス。ソノ義ナラハ、ワ
カ寺ノ徳業コソ、御導師ハセラルヘケレ。ユヘイカントナルニ、
聖武皇帝ノ、チキリアサカラサリシ、三台女御ニスキヲクレタ
テマツリ、御ナケキ深カリシニ、死出ノ山ヨリ、郭公ニ、女御
ノ御歌ヲヨミテ、娑婆へ言伝ラレシ事アリシ。其歌ニ曰、
ワクラハニトフ人アラハ別都頓宜須

死出ノ山ヲハヒトリコソユケ、ト

仮字ニ書テ、郭公ノ足ニユイ付テ、ツカワサレケレハ、卯月八
日ニ、内裏ノ上ヲ啼メクルナリ。公卿殿上、鞠ノ会アリケルカ、
「初音メツラシク聞ユルモノカナ」ト、雲井ヲ御覽スレハ、文
ヲクイキリテ落シタリケレハ、大臣達、不思議ノコトニ思召、
コレヲトリテ、帝王ニ奏シ申ケレハ、コレヲヒラキ御覽スレハ、
女御ノ御手跡ニテ、コノ歌ヲ読タマヒタリシヲ、御覽シテ、御
涙ニ咽セタマヒ、「アナムサンヤ、御存生ノトキハ、万乗ノ位ニ
ソナハリ、国母、女院トカシツカレテ、サコソ目出度マシク
シカトモ、死出ノ山ヲハ、タ、独越行玉ヒケンコサンナレ」ト
テ、金銅十六丈ノ廬舎那仏ヲ、手ツカラ自ラ鑄立マツリ、行基

菩薩ヲ御使トシテ、中天竺ヨリ、婆羅門尊者ヲ請シ渡タテマツリテ、供養ヲトケサセ玉ヒタリシ事ソカシ。我寺ノ本願ヲ思トモ、徳業コソ導師ヲハセラルヘケレ」ト申シケレハ、寺僧綱、コレヲキ、テ、「サラハ、我寺ノ誦源法印コソ、顯蜜ノ家ニテマシマセハ、御導師ハセラルヘキ」トソ申サレケレハ、帝王ヲ始マイラセテ、田舎武士等ニ至マテ、イツレヲ導師ニ可_レ定トモ不_レ思召。

カ、ルトコロニ、梶原、鎌倉殿ノ御前ニ參シテ、「地体、御心セハキ御事ニテ御坐候。ツキサマノモノサエ、富貴ノ家ニ生レタルニハ、堂ヲ作、塔ヲ組テ、二坐三坐ノ說法ヲハ、セサスルコトテ候ソカシ。イワンヤ、大日本一番ノ大仏ノ御供養ニ、一坐ノ御說法ハ、スケナキ御事ニコソ候ハンスレ。唯、三人ナカラ、被召候へ」ト申サレケレハ、山ノ大衆、「タカ、我山ノウヘヲハコスヘキ。座主一番」トソ申シケレ。

マタ、奈良法師ノ申シケルハ、「過族_{シヨク}ヲタテンスルカタハ、タレカ山ニ可_レ劣。東大寺ハ、聖武皇帝ノ御願所、興福寺ハ淡海公ノ氏寺也。過族エイヨウモ、南都ノ上ヲハ誰カコスヘキ。徳業一番」トソ申シケル。

マタ、寺ノ僧綱申ケルハ、「ソノ義_キナラハ、我寺ノ法印コソ、九条殿ノ御息息ニ、寿菜院ノ寛明僧正ノ御弟子也。顯蜜顯覺淨行持律ノ御事ナリ。法印、御導師ヲセラルヘシ」トソ申サレケル。何モ_レ、論シ申サレケレハ、イツレヲ一番ト、可_レ定トモ不_レ思召。

又、梶原マフシケルハ、「サ候ハ、_レ鬮ヲトラセ候ハン。鬮ノハカリコト、カタ恨ハ候ハシ」トテ、三人ノ御代官ヲ召シテ、

安達ノ藤九郎、鬮ヲ以トラス。ケニ、山王権現ノ、御ハカラヒテ候ケン。山ハ一番ニトリアタル。南都ハ二番ニ取当ル。寺ハ三番ニ定ヌ。

サテ、法会ノ義式ハ、山ノ大衆一千人、奈良法師一千人、寺ノ僧綱一千人、初テ三千人、大行道ニタチメタル。

錫杖ノ役ハ、山ヨリ、円入房ニサタマリヌ。伽陀ノ役ハ、南都ヨリ、卒ノ法印、但馬ノ阿闍梨、戒壇院ノ大夫房、円明院ノ式部ノ阿闍梨ヲ始トシテ、十二人トソキコヘシ。鏡鉢ノ役ハ、寺ヨリ、覺乘坊、道永坊、承り、各々清僧共、我ヲトラシトイキスミケレハ、天人モ影向シ、堅牢地神、梵天四王、竜神八部モ、御納受シマシマスラントソ、ヲホヘケルホトニ、上臈達、輿車ニノリ烈テ、御聴聞セラル。

座主ノ御說法ハシマル。近モ遠モ、一文一句モ、御聴聞、コトモナカリケリ。コレヲハシメトシテ、三座ノ御說法、誰コソ耳ニ入、御聴聞、コトモナカリケリ。

鎌倉殿ノ北ノ御方、大将殿へ、御使ヲ以、申セ玉ケルハ、「東国ヨリ、仏ノ御說法、聴聞ノ為ニ、上テ候ヘトモ、何事ノ聴聞、事モ候ハネハ、法然聖人ノ御說法、聴聞申候テ、心安下向シ候ハ、ヤ」ト、申セ玉ヒケレハ、「頼朝モ、サコソ存候へ」トテ、御使者マイラセラル。聖人モ、「今コソ、心易存候へ」トテ、「參候ハン」ト、御返事アリ。

去程ニ、山ノ大衆、コレヲキ、テ、「不思議ノ法然房ノ振舞カナ。硯学達ノ御說法ノ後ニ、何条、法ヲ可_レ述。イカサマニモ、浄土門ヲ替テ、余宗ヲ謗ラントソ思ラン。モシサモアラハ、ユスヨリ引下シ、恥ヲアタエンモノヲ」トテ、荒キ大衆一二百人、

姿ヲヤツシテ、聴聞衆ニ交ケリ。

聖人、コレヲシロシメサレタレトモ、六青キノ小袖ノ、サル体ナルヲ、二ハカリニ、薄黒染ノ衣召シテ、高野ヒカサラメシ、イト、コトモナケナル体ニテ入堂アリ。

御供ニハ、小坂ノ善惠房、長楽寺ノ隆寛、引接房、筑紫ノ聖光房ヲ始トシテ、御弟子十二人ソ參ラレケル。上人ノユス近クツラナリ玉フ。

若殿上、「アナ賤ケノ御房ヤ。輿車ニテコソ、可參ニ、陸ハタシニテ見苦サヨ。コレハ、本ヨリノ貧僧カ」ナント、囁語サヤキ咲事カキリナシ。

上人、東西ヲ御覽シテ、幾千万トモナキ聴聞衆ヲ、皆死人ソカシト思食、御涙ヲ流サセ玉ヒケレハ、北面ノ下臈共、「説法スヘキ器量カナクテ、啼給フニコソ」トテ、笑ケリ。

聖人、鐘ウチ鳴シ、鼻ウチカミタマヒテ、東西ヲ御覽シマハシ、「人ノ身ノ欲心ハ、ヨソロシキ物ニテ候。碩学達ノ御説法ノ跡ニ、源空カ參候ヘハ、何条、法ヲ可述。イカサマ、施物ニコソ、心ヲカケテ參タルラメトソ、思召候ラン。ソレ、モトモ理也。又、御聴聞衆ノ体、御耳恥カシカルヘキ御事ニテ候。才覚サトウチ、博覽ハクワンノ人、数多御ワタリ候ヘハ、恥クコソ候ヘトモ、一座ノ説法ハ、仕ヘク候。定テ、山ノ大衆、イカサマニモ、浄土門ヲホメテ、余宗ヲキラハ、恥ヲアタエントソ思召候ラン。八万四千ノ法ハ、皆、衆生ノ機根ニシタカヒテ、トキヲキ玉ヘル法ナレハ、イツレヲソシリ、イツレヲ正トスヘシトモ、不覺候。中ニモ、我身ノ体ハ、妙法蓮華經ノ五字ヲ以、建立シ玉ヘル事ナリ。胸ニ八葉ノ蓮花アリ。仏皆、コレニ座シ玉ヘリ。故

ニ、悪業、本ヨリツネニナシ。妄想転倒ヨリヲコル。心藏、皆キヨケレハ、衆生、本ヨリ仏也。故ニ、法花經ヲソシランモノハ、タ、我身ノ体ヲ破ニ似タリ。抑、法花經ト申ハ、中天竺ノアルシ、淨飯大王ノ御子、悉達太子十九歳ニテ、大道心ヲオコシ玉フ。御契フカ、リシ、耶修多羅夫人ヲソムキ、愛アイミノ御子羅睺羅ヲフリステ、檀特山ニイタラセ玉フ。阿私仙人ニ仕テ、難行六年、苦行六年シ習、ツカヘサセ玉ヒテ、三十成道、御クシ剃除シ玉ヒテ、釈尊ト現レ玉ヒシカ、一字一点ナリトモ、コノ御經ヲアタニ可申事ナシ。去ハ、書写供養シテ、ツ、ミ奉納ホウナウシタテマツレハ、クサキイキヲ御經ニアテシトテ、口ニフクメンヲシテ、奉納シタテマツル御經ナリ。カ、ル目出度御經ヲハ、末代悪世ノ衆生等、争カ、タモチタテマツルヘキ。又、真言教ト申スハ、人トナル事ハ、父ノ姪、母ノ姪ヲ持テ人ト成ヘキ。北斗七星ホクシチシツ延命經ニハ、九曜七曜ノ星ノアツマリテ、作コシラヘル事ナレハ、大骨、小骨、肉、肝、目、口、耳、鼻、六根六境、仏ナラスト云事ナシ。出入ノ息ハ、金剛界、胎藏界、動ハタラク事、印契ナラスト云事ナシ。ナカンツクニ、北斗七星ハ、人ト作テ、頂ツツキヲ座トセリ。最後臨終ノトキマテモ、シレウヲ定メ、トキニ随テ、衆生ヲ守護シ玉フ。九曜七曜ハ、酒トナリ飯トナリ、衆生ヲ守護シ玉フ。衆生、ヲワラントスルトキ、北斗サキタチ、座ヲハナレテ出玉フヲ、人玉ノイツルヲ、光モノ、イツルト申ス事ニテ候。カ、ル目出度法ナレトモ、七年ノケ行、五年三年、イカニヲトルトイヘトモ、百日ノ精進齋シテコソ、伝法灌ツツ頂ツツハ仕候ヘ。カクノコトク候アヒタ、下界ノ衆生、コノ法ヲハ、争カ可持。マタ、坐禪修行ト申ハ、達磨、

イシノ、ノ智人達ノ、樹下石上ニコモリ、岩ノ上ヲ坐ト定、膝ヲクミ、手ヲムスヒテ、三業ヲシツメ、身ヲハタラカサテ、七年五年三年トヲシテ、得法ナントハツカマツリ候へ。末世ノ衆生ハ、風ノ梢ヲナラスカコトク、海ノ波ノアレタルカコトク、散乱疎動ノコ、ロナレハ、争カ輒ク、カ、ル坐禪ヲハ可仕。カ、ル事ヲ存知シ玉ヒテ、八万四千ノ教法ヲトキ玉フ中ニ、大無量壽經ニ云、『末法万年、余經悉滅、弥陀一教、利物遍増』トトキ玉ヘリ。此經ヲ、善導、釈シテ、曰、『万年三宝滅、此經住百年、爾時間一念、皆當得生彼』ト説玉ヘリ。カ、ル御事ニテ候へハ、源空、浄土門ヲ取立候へハ、外道ノ法ヲトリ立テ、衆生ヲ地獄ヘヲトサントツカマツルトテ、山中ヲオヒ被出テ候へハ、争カ聖教ノ所判ヲハ、ソムキ可候。三世ノ諸仏ハ、十方仏土ヲ建立シテ、衆生ヲ導カント、チカヒマシマセトモ、余仏ハ、顕蜜兼学、淨行持律ノモノヲコソ、ムカヘントハチカヒマシマセ。西方極楽ノ阿弥陀仏ハ、十惡五逆ノ衆生ハ、永ク三途ニシツミテ、ウカフマシキカト、ナケカセタマヒテ、五劫思惟ノ間、結跏趺座シ玉ヒテ、四十八願ヲオコシ玉ヒテ、第十八ノ願ニ、六字ノ名号ヲ造玉ヒテ、乃至十念ノ願ヲオコシ玉ヘリ。抑、五劫思惟ト申ハ、一劫ノフカキ事、高サ八十里ノ磐石ヲ、天人、アマノ羽衣ト云モノヲ以、三年ニ一度、アマクタリ玉ヒテ、コノ岩ヲ撫テハノホリノ、皆ナテツクスラ一劫ト申ス也。又、八十里ノ箱ニ、芥子ト申スモノ、ナノタネヨリモ少キヲ、箱ニ滿タランヲ、天人、三年ニ一度下リテ、一ツ、取ツクセルヲ、一劫ト申ス也。如是、方八十里ノ岩ヲ撫尽シ、八十里ノ箱ノ芥子ヲ取ツクス事、五、撫ツクセルヲ、五劫思惟トハ申シタル事ニテ

候。コレホト久ク案シマシマス功能、イカホト、カオホシメシ候。念仏ヲハ、タツコ、ハウコ、幼者モ、南無阿弥陀仏ト申ハ、ヤスキ事ニテ候ヘトモ、仏ノ兆載永劫ノ間、衆生ヲ仏ニナサントテ、案シマシノケルアリカタサヨトテ、南無阿弥陀仏ト申コソ、八十億劫ノツミノ重罪、消滅スルトコソ候へ。中ニモ、一念十念ノ功能ノフカキ事、タトヘヲトリ申サンニハ、高限樹ト云木ハ、ライノホル事、一日二百丈ツ、百年ヲキノホル、コノ木ノ高サニ、金銀七宝ノ塔ヲクミタラント、一念ノ功能ト對シ候へハ、高限樹ノ高ノ七宝ノ塔ノ功德ハ、十分一モ、念仏一念ニハ、ヲヨフヘカラスト見テ候。又、毘蘭風ト云風ハ、大力ノ箭ヲ射出シタランカ如ク、東西南北ヲメクラシテ、オコタラス、百千年、吹ユキタラントヲサノ間ニ、金銀七宝ノ堂塔ヲ、ヒシト作タラント、一念ノ功德ト對スレハ、毘蘭風ノ吹ユキタランアトノ堂塔ハ、十分一モ、一念ノ功德ハ、争カヒトシカラシ。天竺ニ恒河ト云河アリ。無熱池ト云池ヨリ流タル河ナリ。広四十里、フカサ四十里ナリ。ミナ上ヨリ源マテ、百万三千六百里流タル河ナリ。此河ノ砂ノ數ノ金銀七宝ノ堂塔ヲ、造立シタラン功德トクラフレハ、恒河ノ沙ノカスノ堂塔ハ、千分一モ、十念ノ功德ニハ、不可及トコソ見テ候へ。一大三千世界ノ草木ヲアツメテ、灰ニ焼テ、此ハソノ山ノ木ノ灰、カレハ草ノ灰ト、仏ハシロシメセトモ、一念十念ノ功德ヲハ、トキツクシカタシト、仏ハトキ玉ヒテ候へ。中ニモ此法ハ、女人ノタメニ、オコシ玉ヒタル願ニテ候。三業ヲシツメテ、耳ヲソハタテ、聞食レ候へ。女人ハ、三世ノ諸仏ニステラレテ、仏ト成ヘキ事ナシ。吾朝ハ小国タリト云トモ、女人ノマイラヌ所ハオホク候。吉野

ノラクニハ不動院、比叡山ニハ坂本ヲカキル。高野山ニハ不動坂、天王寺ニハ宝塔、善光寺ニハ、堂ノウチヘハマイルトモ、ミカウシノ中ヘハ、マイル事ナシ。アサマシト云ハカリナシ。サレハ、涅槃經ニハ、『女人地獄使、永断仏種子、外面似菩薩、内心如夜叉』トノ玉ヘリ。コノ文ノ心ハ、『女人ハ地獄ノ使ナリ。永ク仏子ノタネヲタツ。外ノオモテハ菩薩ニ似タリト云トモ、内心ハ夜叉ノコトシ』。同キ經ノ二十一卷ニ、曰、『諸有三千界、男子諸煩惱、合集為一人、女人之業障』トノ玉ヘリ。コノ文ノ心ハ、『アラユル三千世界ノ、男子ノモロクノ煩惱ヲ、アワセアツメテ、女人一人ノ業障トス』トノ玉ヘリ。同經ノ二十三卷ニ、曰、『女人大魔王、能食一切人、現世作纏縛、後生為怨敵』トノ玉ヘリ。此文ノ心ハ、『女人ハ大魔王、ヨク一切ノ人ヲクラウ。現世ニハ纏縛トナリ、後生ニハ怨敵トナル』トノ玉ヘリ。心地觀經ノ一卷ノ四丁メニ、曰、『三世諸仏眼、墮落於大地、法界諸女人、永無成仏願』トノ玉ヘリ。此文ノ心ハ、『三世ノ諸仏ノ御眼ハ、大地ニ墮落スト云トモ、法界ノ女人、永ク成仏ノ願ナシ』ト。阿含經ノ一ノ卷、二十一丁ニ、曰、『一見於女人、永結三途業、何況於一犯、定墮無間獄』トノ玉ヘリ。此文ノ心ハ、『ヒトタヒ女人ノミレハ、永ク三途ノ業ヲムスフ。イカニイワンヤ、ヒトタヒオカシヌレハ、定テ無間獄ニヲツ』ト云リ。法花經ノ五ノ卷ニ、曰、『二者不得作梵天王、二者帝釈、三者魔王、四者転輪聖王、五者仏身』ト曰ヘリ。此文ノ心ハ、『女人ハ、一ニハ梵天王トナル事ヲエス。二ニハ帝釈トナラス。三ニハ魔王トナラス。四ニハ転輪聖王トナラス。五ニハ仏身トナラス』トノ玉ヘリ。サレハ、女人ハ、三世ノ諸仏ニステラレタリ。女人ノ頂

ニ、クツチノカナヘアリ。肩ニ火毒ノホムラアリ。胸ニ劍ホクノツルキノ山有。カクノコトクノ不淨惡業ノトカラ、身中ニツ、メルニヨリテ、女人ヲハ、トコシナヘニ、忌フカクイマレヌルモノト、トキ玉ヘリ。サレハ、女帝ノ御門ハ、コノ涅槃經ヲ御覽シテ、『不審ノ仏ノ御アリサマカナ。サナカラ、女人ノ惡名ヲタテ玉フ、口惜サヨ』トテ、涅槃經四十卷ヲ、皆焼ハラハセ玉ヒタリシヲ、御子徳一大師、碩学ニテハタラセ玉ヒシカハ、空ニヲホヘテカキト、メテ、日本国ニハヒロメ玉ヒシ御事ナリ。女人ノ業障ノフカキ事、カクノコトシ。淺猿キ事カキリナシト云ヘトモ、阿弥陀如来、廣大無辺ノ御慈悲ニテ、四十八願ノ中ニ、第三十五ノ願ニ、云ク、『説我得仏、十方無量、不可思議、諸仏世界、其有女人、聞我名号、歡喜信樂、發菩提心、默於女身、壽終之後、復為女像者、不取正覺』トトキ玉ヘリ。コノ願ノ心ハ、『タトヒ、ワレ仏ヲエタランニ、十方無量ノ不可思議、諸仏ノ世界ニ、ソレ女人アリテ、我名号ヲキ、テ、歡喜信樂シテ、菩提心ヲオコシテ、女身ヲイトヒ、ニクマン。命ヲハリテノチ、マタ女像トナラハ、正覺ヲトラシ』トチカヒ玉ヘリ。マサニシルヘシ。又、女人成仏ノ願、成就ノ文云、『スナハチ、弥陀ノ本願力ニヨルカユヘニ、女人、仏ノ名号ヲ稱シテ、マサシク命終ノトキ、女身ヲ転シテ男子トナルコトヲエテ、弥陀御手ヲサツケ、菩薩身ヲタスケ、宝華ノ上ニ座シ、仏ニシタカヒテ、往生シテ、仏ノ大会ニ入テ、無生忍ヲ証悟ス』。又、一切ノ女人、若、弥陀ノ名願ニヨラスハ、千劫、万劫、恒沙劫ニモ、ツイニ、女身ヲ転スルコトヲウヘカラス。マサニシルヘシ、今、アルヒハ道俗アリテ云、『女人、淨土ニウマル、コトヲエス』ト云ハ、

忘悪ナリ。信スヘカラス。サ候ヘハ、関東ノ女性達、ヨク／＼コノ法ヲキ、タモチテ、念仏マウサセ玉フヘシ。ユタンシテ、地獄ヘヲチサセ玉ヒ候ナ。但、女人ノ悪名ハタテ申候ハス。マタ、天女成仏経ニハ、女人ノ方人セラレテ候ナリ。『天ナクシテハ雨フラス、地ナクシテハ草木オイス。天ト地トノメクミニテ、草木ハ出生シ候ヘハ、ソレニタカハス、女人、三千世界ノ仏ノ蔵』トコソ、トキ玉ヒテ候ヘ。女人ナカランニハ、争カ仏ノタネヲハツクヘキ。サレハ、文ニハ『女人誹謗罪、仏誹謗断』トテ、女人一人謗シツレハ、諸仏ヲ謗スルナリ。タノモシキカナヤ。サリナカラモ、コレヲタノミ、ユタンシテ、地獄ヘヲチサセ玉ヒ候ナ。又、観無量寿経ニ、三輩ヲワケラレタリ。上輩ノ念仏ハ、誦誦大乘解第一義、如法如説ニ、勇猛精進ニシテ、一日七日、一心不乱ニシテ申ス念仏ハ、大乘ノ念仏トキコエタリ。中輩ノ念仏ハ、戒ヲ持、時ヲシテ申念仏ニテ候。下輩ノ念仏ハ、阿弥陀仏ノ仰ニ、『抑、人トナルハ、種々ノ不浄ヲアツメテ、人トハナレルモノナリ。身ノキタナキ事、大海ヲ傾テス、クトモ、争カ清クナルヘキ』。阿弥陀仏ノ誓ニハ、『不浄、不浄心乱、但念弥陀、即得往生』トトキ玉ヘリ。サレハ、汚穢不浄ヲモキラハス、行住座臥、時処諸縁トテ、ネテモサメテモ、他事ナク念仏ヲタニ申セハ、上輩中輩ヲコエテ、浄土ノ往生ヲトケン事、ナニノウタカヒカ候ヘキ。マタ、念仏誹謗ノモノハ、阿鼻地獄ニヲチテ、長時ニ苦惱ヲウク。若、ソノ地獄ヤフルレハ、他方ノ阿鼻獄ニヲツ。カクノコトク展転シテイツル、ソノ期ヲ仏シリタマハスト、キ玉ヘリ。返クモ、諸法ヲ謗スルコトナカレト、迦陵頻ノ御声ニテ、午ノ時ヨリ、諸法ハシマリテ、酉ノ辰

マテ、御説法アリ。

チカキモトヲキモ、御声ノ不及ト云事ナシ。聴聞ノトモカラ、袖ヲヌラサヌハナカリケリ。早鐘ウチナラシテ、床ヨリサセ玉ヘハ、公卿殿上人、輿車ヨリヲリ、カリキヌ束帯ノ袖ヲアハセテ、各々礼拝シタテマツル。

コ、ニ、ヒトリノ悪僧、上人ニ立ムカヒタテマツリテ、『謗法ノ罪人ハ阿鼻大城ニ落テ、長時ニ苦惱ヲウクルト、キ玉ヘルハ、イツレノ経ノ文ソヤ』。

聖人、トリモアヘス、『大仏頂経ノ文ナリ』ト答ヘ玉フ。コノ僧、袈裟ヲシノケテ合掌シテ、『後生タスケ玉ヘ、聖人』ト礼シタテマツル。粗、鼻ウソヤフキテソミエケル。

サテソノ、チ、アフラクラニ入タテマツリ、モテナシタテマツル。御布施ニハ、大将殿ヨリ、御馬六百疋、北ノ御方ヨリハ、ナカモチ三百疋、ソノホカ、大名達、御馬二十疋、長持十枝二十疋、マギラセラル、間、何程ト云不知数、皆奈良へ修理料ニマイラセラレテ、聖人ノ御徳分ニハ、ヒトツモセラレタマハス。

サテシモアルヘキ御事ナラネハ、イソキ大将殿、関東へ御下向アリケリト云々。

大仏供養物語終

(いしかわ とおる・慶應義塾大学助教授)